

新台湾国策シンクタンクフォーラム プレスリリース

➤ の3月に発生した「天安号事件」以後、情勢が急速に緊張した東アジアでは、7月に入り各国で軍事演習が実施されたことで、さらに不透明な情勢となってきている。中国が黄海で独自に演習を行ったのに引き続き、9月にも黄海で米韓の合同軍事演習が予定されている。

こうした状況に鑑み、新台湾国策シンクタンクでは、晶華酒店(台北)において「最近の東アジアにおける安全保障の進展と台湾の採るべき指針」をテーマにフォーラムを開催した。このフォーラムでは、台湾が採るべき戦略を提言するとともに、最新の分析から台湾を取り巻く外交環境についての情報を提供できたものと信じている。

8月31日に開催されたフォーラムには、陳文政・元国家安全保障会議主席顧問、黄偉峰・中央研究院欧米研究所副研究員、劉世忠・新台湾国策シンクタンク研究員および魏百谷・国立政治大学ロシア研究所助理教授が登壇し、羅致政・新台湾シンクタンク執行長兼東呉大学政治学系副教授の司会で進められた。

フォーラムはまず、中国・日本・韓国・ロシアそして米国をめぐる安全保障の進展を分析し、台湾政府に対する提言で開幕した。「天安号事件」に端を発した東アジアの情勢が緊張を続けていることに対し、陳文政氏は「この事態が中国の手に負えていないから。もしくは、東アジアにおける責任を共有したくないか。或いは、その両方であろう」との見方を示した。さらに、劉世忠研究員は「非合理

的かつ好戦的な行為を阻むため、米国はアジアの安全保障を再構築するため、より一層強い決意で臨むであろう」と述べた。

黄偉峰・副研究員は米オバマ大統領が2009年7月、「国家間の権力追求はもはや“ゼロサムゲーム”として見てはならない」と言及したことを指摘。さらに、ヒラリー・クリントン米 국무長官は、オバマ政権と中国の友好関係を強調するため、「多角的権力が支配する世界から、多角的パートナー世界に移行していくべきだ」として、地政学的バランスをとることに否定的だったものの、中国は引き続き地政学に基づく政策に固執したためにこの関係は破談となった、と指摘している。

台湾にとって最良の戦略として黄偉峰・副研究員が提案したのは以下の選択肢である。

- 一、中国と比較的緩やかな協力関係を結ぶ
- 二、中国とガチンコの競争関係になる
- 三、バランスと抑制
- 四、戦略的“便乗”

しかしながら、黄副研究員曰く「台湾にとって、中国はすでに巨大な経済投機対象となってしまっており、もはや台湾自身が中国とバランスを取ったり、封じ込めたりするほどの力がなくなっているため、三つ目の戦略はそもそも台湾には無意味である」としている。

さらに、「いくつか兆候が示すのは、馬政府は中国に対して戦略的“便乗”を実行しつつあること。さらには、中国に“便乗せざるを得ない”レベルに

まで中国からの圧力を受けることになるであろうという点である。ただ、民主主義や選挙といった台湾国内の抑止力が、馬政府の拙速な“便乗”戦略を押し留めている状態」と分析している。しかしながら、こうした状況も国民党が来たる五大都市選挙で勝利すれば、馬政府はより敏感な政治課題に着手するであろうとも指摘する。

また、「馬政府が現在選択しているのは一番目の選択肢。つまり、中国をあからさまに攻撃することのないよう、ゆるやかな協力関係を結ぶというものである。こうして、馬政府は2009年10月、実務問題について交渉相手である中国をテーブルにつかせるため、『92コンセンサス』を基礎として、台湾政府もまた『一つの中国』を承認することをほのめかしたことで、中国側に譲歩した。こうしたことから分かるのは、馬英九総統は安全保障というものが米台間のより強力な軍事同盟からではなく、台湾海峡兩岸関係の改善から生まれるものだ」と信じていることだ」と指摘。

陳文政氏は、米国防総省が発表した2009年の「中華人民共和国の軍事力」と題した年次報告書によれば、台湾が中国と兩岸経済協力枠組協定(ECFA)を締結した後でさえも、中国の台湾に対する脅威は未だに変わりがないと指摘している。

劉世忠・研究員も「米国が緊密な兩岸関係を支持している間は、安全保障や政治的問題について、国民党政府が中国側の主張に同調していても米国が当然に受け入れてくれるものと考えていてはならない」と警告を発する。

黃偉峰・副研究員は、中国とガチンコの競争関係を結ぶ戦略について、「台湾は常に中国との衝

突に備えなければならない。それがたとえ経済交流であろうが、金融事業であろうが変わりはない。中国がその経済力を駆使して台湾の人々を中国の尻馬に乗せようと画策した場合、台湾と中国の経済競争は、安全保障問題に直結していると言っ

てよいだろう」としている。進行役を務めた羅致政氏は以下のように述べ、フォーラムを総括した「片や多くの国々が中国を脅威として受け止めようとしていない。その一方で、それらの国々は中国が脅威だということを忘れようともしていない。中国が期待するのは他の国々が中国の『核心的利益』を尊重するようになることであり、『核心的利益外交』の定義を拡大させてく

るかも知れない。そうなった場合、台湾の戦略に多大な影響を与えることとなる。さらに重要なのは、中国の脅威は一向に減少していないという現実を忘れてはならないということだ」。